

軒天12 木目調 建築用鋼製下地 (LGS天井下地) 施工要領

ニチハの軒天が建築用鋼製下地 (LGS天井下地) に施工できるようになりました。

鋼製下地条件

施工可能軒天材	軒天12 木目調 無孔板 (YL141P/ YL142P/ YL143P)		建築用鋼製下地	耐風圧用下地 野縁: JIS25形 ダブル野縁(CW-25) 50×25×0.5	
			(推奨) 留付ビス	軒天用ビス(JIS品 ステンレス) φ3.5×25mm以上 フレキ頭	

※鋼製下地での準耐火構造認定は取得していません。

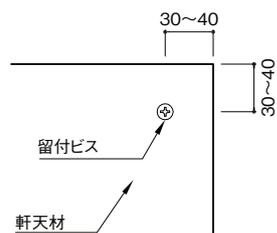
軒天材(軒天12 木目調)を建築用鋼製下地材(LGS天井下地)へ施工する場合は、以下の施工要領で施工してください。

施工要領

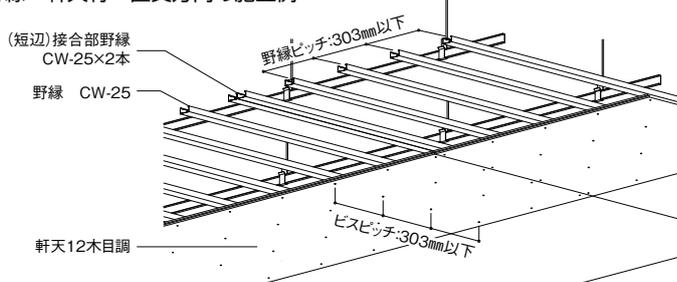
- 建築用鋼製下地(耐風圧仕様)を下地メーカーの標準設計施工に準じて施工し、かつ以下の施工要領で施工してください。
- 野縁ピッチはダブル野縁(CW-25)@303mm以下とし、野縁-軒天材直交方向の場合の軒天短辺接合部(突き付け)、野縁-軒天材平行方向の場合の軒天左右接合部(実接合)は、ダブル野縁を2本施工してください。
※野縁-軒天材直交方向施工時の短辺接合部は、軒天材小口を面取り加工し、面取り部を補修液にて補修してください。
※野縁-軒天材平行方向施工時の短辺接合(突き付け)はしないでください。(施工長さは軒天材長さ以下となります)
- ビス留めは、ピッチ@303mm以下とし、野縁ごとに留め付けます。また、ビス留めの材端空き距離は30~40mmとしてください。
- ビス留めは、先孔・座掘をし留め付けます。ビス頭はパテ処理・補修液で補修してください。

注) ビス頭の補修跡は見る距離や光の加減により目立つことがあります。ビス留め位置を揃えて施工し、ビス頭の補修範囲は最小限としてください。
注) 軒天材の接合部に隙間が出ないように施工してください。(環境によっては、鋼製下地や軒天材に寸法変化が起き、目地隙が発生することがあります。)
注) 高温・高温となる箇所への施工は避けてください。
注) 軒天材・補修用パテ・補修液以外の部材は現地にて調達してください。

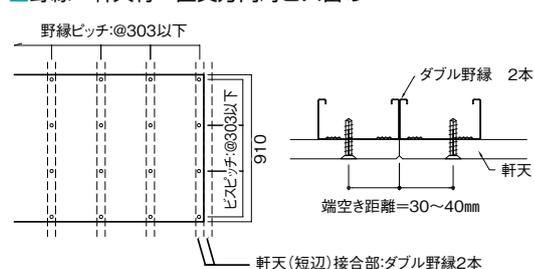
ビス留め端空き距離



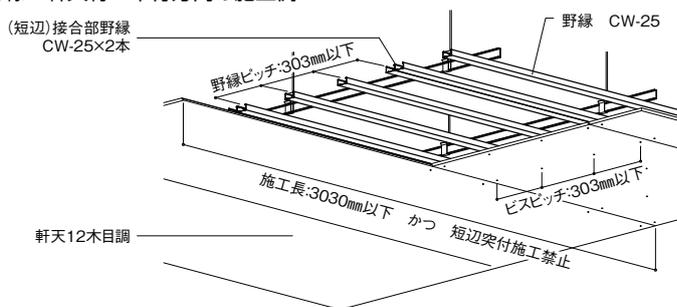
野縁-軒天材 直交方向の施工例



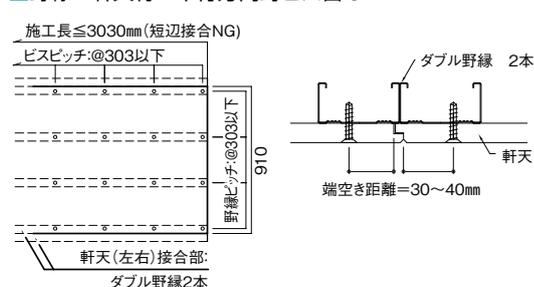
野縁-軒天材 直交方向時ビス留め



野縁-軒天材 平行方向の施工例



野縁-軒天材 平行方向時ビス留め



建物高さ	45m以下	耐風条件	算出された風圧力が、表に示す軒天材の許容風圧力以下であること
------	-------	------	--------------------------------

- 設計耐風圧は、下地メーカーの設計基準による下地組とし(野縁ピッチなど)とし、軒天材の許容風圧力は表から適切なビスピッチを選択してください。
- 風圧力に対する施工条件は建物高さ45m以下とし、条件に沿った風圧力の算定してください。
(※風圧力は、施工高さではなく建物高さで決定されるのでご注意ください。)
- 下表の数字は、建設省告示第1458号により、帳壁について閉鎖型建物・負圧・隅角部にて算出した、想定される風圧力です。

軒天材の許容風圧力

単位: N/m ²		野縁間隔		
		@303mm超	@303mm以下	@227.5mm以下
ビスピッチ	@303mm超	×	×	×
	@303mm以下 910幅 4本留め	×	1307	1741
	@227.5mm以下 910幅 5本留め	×	1741	2318
	@182mm以下 910幅 6本留め	×	2176	2898
	@152mm以下 910幅 7本留め	×	2605	3470

風圧力 算出例

※風圧力は施工高さではなく建物高さで決定されます。

建物高さ (m) ※	地表面粗度区分: Ⅲ地域					
	基準風速 (m/s)					
	30	32	34	36	38	40
45m 超	施工不可					
45	1367	1555	1756	1968	2193	2430
40	1304	1484	1675	1878	2092	2318
35	1236	1406	1588	1780	1983	2198
30	1162	1322	1493	1674	1865	2066
25	1080	1229	1388	1556	1734	1921
20	988	1124	1269	1423	1585	1757
15	881	1002	1131	1268	1413	1566

(負圧、単位: Pa)